



SSKS 療育ねっとわーく川崎

2020年5月20日発行
No.300 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり



こんなとき どうするの?

今回は「やまゆり園事件」の判決を受けて、障害当事者の方・ご家族・福祉に関わる方達から(すべての方が当事者として)良いと思いますが、思いをいただきましたので、みなさんの思いをそのまま掲載します。

Aさん…反省して欲しい。でも自分が犯した罪の重さがわからないなんて。自分の心を満たす為に命を奪っていいはずがない。植松死刑囚に聞きたい。あなたは世の中の全ての人間から生きていても仕方がない人間だから死刑になったと言われているのだ。その気持ちはどうなのか?

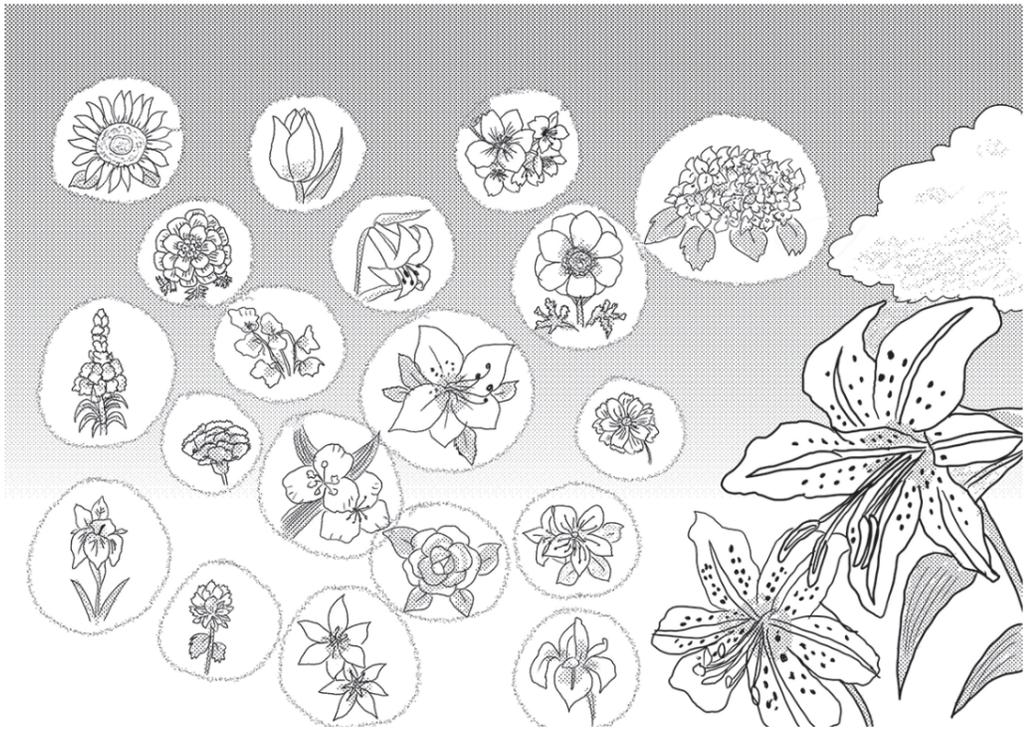
Fさん…津久井やまゆりの件は、ずっとモヤモヤした状態で受け止め切れません。関わった施設関係者、保護者、マスコミ、犯人などなど、何も本当のことは語っていません。裁判も人権保護の観点と言う理由で、あんな形はあり得ない。障害者の人権どころか存在すら無視しているように感じました。生活をしていく中で、立場や関係性を超えていろいろな意味で「排除」ということを考えさせられます。報告書を

全面的に信じるものではありませんが、この本質を読み取るきっかけになりました。関わった誰もが心の闇は語らないのであれば、何回裁判をしたところで意味はないと思います。これを機会に、共に暮らせる社会とはを考へ行動していくことだと思います。

Mさん…私は、死刑は確定したのは解ります。でも何であんな事件をおこしたのが解らないのに、死刑の判決が出たのが、なっとくができません。これからそういう事件がおきたときに、どう対応をとるのか解らなくなりそうでこわいと思います。

Fさん…やまゆり園の事件は、植松には生きてまま牢獄で、一生生きてほしいです！ 死刑で終わるのは、良いなと思います。

Kさん…まさかこんな事件が実際に起きるとは、当時一報を聞いて本当に衝撃を受けました。その後悲しみや怒りなど数々の感情が浮かびましたが、それは今でもうまく言えませんが、整理もつきません。ただ実際に被害を受けた



やまゆり園での障害者殺傷事件は、3月16日に判決が言い渡されました。しかし、事件はこれで終わったとは思えません。

NHKでは、やまゆり園事件を「19のいのち」障害者殺傷事件として、オンライン番組で報道を続けています。多くの方がご覧になり、一緒に考え続けていただけたらと思います。

【NHK オンライン 19のいのち 番組のタイトルより】

あの日、19人の命が奪われてから3年の月日が経ちました。あれから私たちは、社会は、あの事件とどう向き合ってきたのでしょうか。

「死んでしまっても仕方のない命」「産まれて来ない方が幸せな命」…障害のあるなしに限らず、いまも、この社会のどこかで、命に線が引かれているように思います。

「周りに迷惑をかけたくないから」「生産性がない」…自分や他人の存在を1つの価値観で否定してしまう、そんな言葉もあふれています。

でも、ふと思うのです。

誰の支えもなく生きている人なんているのでしょうか。

私たちは「経済性」や「合理性」で誰かを大切に思っているのでしょうか。

“そのままのあなたでいい”と誰もが言われたら、生きづらさが軽くなりはいませんか。

「誰をも排除しない」—それは“きれいごと”かも知れません。

でも「変わらない」と諦めず、“きれいごと”を目指すことから一步が始まると感じています。

その先に、事件の前とは違った景色が広がっていると思うのです。

これからも、みなさんの言葉をお待ちしています。

今月号の目次

- 1 こんなときどうするの.....
- 2 障害者差別解消法(当事者家族から).....
- 3 二つの裁判.....
- 4 お知らせ.....
- 5 第20回総会のお知らせ.....
- 6 やまゆり園事件の何を裁くべきか.....
- 7 障害児の子育て支援ハンドブック改訂版.....
- 8 私の人生バラ色.....

(本誌5・6・7・8面は会員のみに郵送)

発行所 郵便番号一五七〇〇七三 世田谷区砧六二六二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価一〇〇円

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費一口 1000円



二つの裁判

のり せいどじょうほう
紀さんの制度情報

■今回は二つの裁判の判決についてお伝えします。

判決結果と裁判に至る要因のみを掲載します。この裁判結果をどうとらえるかは、みなさんそれぞれだと思えます。

ただ二つの裁判は私たちにとって、見過ごしてはいけない問題だと思います。

津久井やまゆり園事件 2020年3月16日判決

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら45人を殺傷したとして、殺人罪などに問われた元職員、植松聖被告（30）の裁判員裁判の判決公判が16日、横浜地裁であった。青沼潔裁判長は被告の刑事責任能力を認めた上で「犯行結果は他と比較できないほど重大。酌量の余地は全くなく、厳しい非難は免れない」として、求刑通り死刑を言い渡した。

2016年7月26日未明、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」に元職員の植松聖被告が侵入。入所者19人を殺害し、職員を含む26人に重軽傷を負わせたとされる事件。

川崎就学裁判 2020年3月18日判決

重度障害を理由に就学先を神奈川県の特設支援学校に指定されたのは違法だとして、川崎市の障害児と両親が地元小学校への通学を求めた訴訟の判決で、横浜地裁（河村浩裁判長）は十八日、県と市の教育委員会の判断が妥当性を欠くとは言えないなどとして、請求を棄却した。

訴状より

小学校入学に際し、両親は地元の川崎市立小を希望したが、市教委は「専門的な教育が適切」として県の特別支援学校に就学するよう通知。両親は地元小の特別支援学級が適切とする主治医の診断書を提出したが、決定は変わらなかった。

NHKオンライン 「19のいのち障害者殺傷事件」を視聴して

もう、間もなく4年になるんだなあ」と改めて感じた。

あれだけ報道され、話題になり、皆で深く話していたのに

3年以上の時間や様々なその後の事件事故。今ではコロナなどで、あの、あれだけ凄惨な事件の話が少しずつ薄れてきている現実。

でも、今回この記事を再度目にして、またあの凄惨な事件が蘇り、涙で読み進められない状態になった。やはり受け入れられない、許せない事件なんだと、改めて思う。

そこで、今回、被告はどういった人物だったのだろうと考えた。

被告は事件前は支離滅裂な持論をあちこちで発している。

障害者への暴言、暴力。

それは大麻使用や親との関係性など、被告を凶行に駆り立てた思想に向かわせる原因はそこにあったのか？

知的で理路整然とした文章を残している被告。

本当の、真の犯行の理由が示されないまま被告は死刑執行され、何も分からなくなる。

差別が根底にずっと流れていることは分かるが、被告の考えに共鳴する人が居るといふ事実があり、誰もが受け入れられない犯行動機を示して欲しかったと考えます。

（森恵）

しょうがいしゃさべつかいしょうほうとうじしゃかぞく 障害者差別解消法（当事者家族から）

「3月号大山さんインタビュー・後編」

放課後デイで働く大山と申しませす。福祉を学んでいる大学生です。職場や大学でのことをお話ししたいと思います。

中学生のころから福祉に興味があり、大学では福祉を学ぶため、社会福祉学科に進学しました。文字どおり高齢者・障害者福祉や地域福祉、法律関係など社会福祉全般を学ぶ学科で、3年生の現在は「社会福祉士」や「精神保健福祉士」の受験資格が取得できるコースを選択しています。

大学入学後は、1年生の春から放課後デイで働いています。入学前より障害児支援に携わりたかったため、一度は学内のボランティアサークルに入ることも検討しましたが、ボランティアではなく仕事としてしっかり責任をもちたいとの考え

から、バイトという形で働くことにしました。現在は週2回の勤務ですが、大学の授業の関係で勤務日を調整していただいて本当に助かっています。障害のあるお子さんと関わりながら、スタッフの方々から支援の方法を勉強させていただき、本当に楽しい毎日です。

仕事で、印象に残っている出来事があります。私が放課後デイに勤務した初日のことです。ある男の子を見守るようになりました。その子はずっと眠っていて、特に何もすることはありませんでした。手を握ってあげたりして過ごしましたが、目が覚めると、その男の子は優しい表情で声を出していました。実はこの男の子は、ふだんあまり発声することもありません。小さな出来事かもしれませんが、当時障害児のことについて何も知らなかった私は、勤務初日にいつもとは違うリアクシヨ

ンを取ってくれたことが嬉しく、同時に一層障害児福祉に興味をもつきっかけにもなりました。

この放課後デイは、安全面は考慮した上で、形にとらわれず様々なことに挑戦していくとても雰囲気の良い場所です。私も責任者のお二人がいつも口にして「利用者や職員という前に、まずは人と人との関わり」の言葉を胸に、利用者さんのために何々をしてあげるといふ気持ちではなく、これからもっと自然な流れでサポートしていきたいと思っています。今後、資格取得のための実



習で働ける日は少なくなりますが、卒業までこちらで働きたいです。

大学卒業後の就職先は、まだ具体的には決めていません。さらに通っている大学には社会福祉学科に在籍している学生はあまりおらず、実際就職先も金融機関や公務員などが大半です。ですが、福祉を仕事にしたという私の気持ちは全く揺るぎません。しっかりと現場に出て対人援助を行える、障害児福祉の仕事に就くことを希望しています。

（文・金子文俊）

【大山志織プロフィール】
2015年4月 高校福祉科入学
2018年3月 高校福祉科卒業
介護福祉士合格
2018年4月 大学人間社会学部
社会福祉学科入学
放課後等デイサービスでバイト開始